

文芸

俳句

一発てふ金肥とり込む代田かな
 遊歩道蛙の唄に急かさされし
 田に映る空に田植の準備かな
 野に放つ山滴りて牛の声
 思いだし笑顔こぼれてチューリップ
 夏至の日も疲れを知らぬ牛の顎
 日矢受けて日毎艶出す柿若葉
 老境の夕餉の早し冷奴
 籐を包む夕刊お裾分け
 檀林のぼつと明るき牡丹かな
 忘れたき恥は忘れず夏至夕べ
 短夜の夢は疲れを増すばかり
 夏至の日やまだ灯ともさず庭を掃く

土屋美枝子

伊藤 敬子

今関満喜子

魚地 照子

加瀬 俊昭

鹿子木小夜子

川島 通則

向後 寛

越川せつ子

小松 藤夫

佐瀬 輝禿

椎名万里子

鈴木とし子

短歌

掌へ風よりみかんの花拾ふ
 濃く淹れてしばし嗜む新茶かな
 乗り放題切符ポッケに夏至の朝
 光彩を空に放ちて柿若葉
 意に添はぬこともふんざりつけ五月
 藤田 雅夫
 土屋 義昭
 戸村 静華
 西崎さち子
 早川 勇
 空地向はぬこともふんざりつけ五月
 藤田 雅夫
 檀林の境内に咲く牡丹の花
 人等集まり見つめるにけり
 ペットボトル二本をさげて裏畑の
 茄子とオクラに水を灌げり
 内藤 くに
 高梨 キヨ
 空地にはパネル並ぶや太陽光
 時代の流れ景色変りぬ
 緋見せ泣いてもいいよと彼が言う
 映画みたいなセリフが欲しい
 越川 義則
 諍へど洗ひ上りしソックスに
 綿埃あれば丹念にとる
 高梨 キヨ
 空地向はぬこともふんざりつけ五月
 藤田 雅夫
 休耕田に葦切鳴けばおもむるに
 近づく吾の足音察す
 押尾 輝子
 入国の審査に待たされるバスの中
 クロアチアの日の出眺めていたり
 浅野 榮子
 「ワイアン・ウエディング」とふ曲流れ
 フラダンス観るひと時の夢
 西山満里子
 子雀は小さく羽ばたき巢立ちたり
 雲一つなき五月の空へ
 椎名美枝子
 初物の蚕豆腐き折りたれば
 莢の中よりつるり大粒
 加瀬 弘子
 執着とふ足枷外し魂の
 自由を得たしと思ふこの頃
 田崎 尚美
 親族らの帰る静まる厨辺に
 ひとり夕餉の支度を始む
 芹川 初子
 早苗田に空の青さが映る見て
 歩幅大きくノルディックウオーク
 水須 俊
 朝空に孔雀思はず白き雲
 よき事あらむ両手を合はす
 斉藤つね子

短歌

作品展

◎町民会館ミニギャラリー

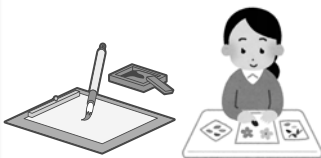
7月 写友会
 8月 華舟会

◎文化会館ロビー展

7月 短歌会
 8月 水墨画クラブ

◎銚子商工信用組合展

7月 アート押し花クラブ
 8月 俳句会



町で最も古い

鉄筋コンクリート建物

この写真は、旧横芝町役場の建物である。昭和三十年、旧横芝町が合併し、本町にあった庁舎が手狭になったこと、国道のバイパスができて道筋が変わったこと、パイパス沿いにあった方が良いと言ふことから現在の地に建てられた。防火構造鉄筋コンクリート二階建て、一階に一般事務室、町長室、二階に議場、会議室が充てられた。その後手狭になり建て増しが行なわれ、現在のようになつた。十年前の合併後、二年ほど行政センターとして使われたが廃止され、空いた建物を文化財収蔵庫として活用し、現在に至る。



▲文化財収蔵庫となっている旧横芝町役場

すでに築五十年以上が過ぎ、老朽化は免れないが、五年前の大地震では何とか耐えた。二階建てであること、造りがしっかりしていたからだろう。今では町内で最も古い鉄筋コンクリート建物であり、町の近代化遺産と言つてもいい建物である。中には町から出た考古資料や、町民から寄贈していただいた民俗資料などが多数収蔵されている。ただ単に収蔵庫としてだけでなく、町の文化遺産を知っていただく場として、文化遺産であるこの建物を博物館・美術館として活用できれば幸いです。

この号をもってこうほう博物館を終了するに当たり、最後の言葉として遺します。長い間、読者のみなさんには御高覧いただき誠にありがとうございます。どうぞよいました。(社会文化課 道澤 明)